

つき詫状〔B〕

指上ケ申一札之事

一私シ妻、当六日ニ小幡 御屋鋪 吉田玄蕃様江「欠入仕候ニ付、
組頭権左衛門殿頼入、何卒御慈悲ニ御返シ可レ被ニ」下シ置しと
奉レ願候処ニ、 御屋敷ニ而被レ 仰候者、女房せき方へ御尋
被レ遊候訳ケ者、私シ不行跡ニ而博奕等仕、農業「不精ニ付、
末々扶持致シ兼可レ申と奉レ存候間、御慈悲ヲ」以、縁切可レ被ニ
下シ置しと奉レ願候由、依レ之「玄蕃様被ニ 仰候者、私シ義向
後身持相改、不行跡・博奕等一切不レ仕、農業計 出精仕候ハ、
御返シ可レ被レ下由、」被ニ 仰聞候、依レ之口書一札差上ケ申候、
貴公様御印形」成シ被レ下候ニ付、御返シ被レ遊被レ下へき由、
難レ有 奉レ存 候、」私シ不行跡之段、預ニ御吟味ニ一言之申吩ケ
無ニ御座候、依レ之「組頭権左衛門殿并善八殿御頼申、御わび申
上ケ候処ニ、」早東御聞濟被レ下、 忝 奉レ存候、重而博奕等一
切不レ仕、」農業第一と出精可レ仕候、若此以後、左様成儀」仕候
ハ、如何様ニも可レ被ニ 仰付候、其時少も相違イ申」上ケ間
敷候、為ニ後日、一札如レ件

倉右衛門

宝曆十一年巳年

四月日

名主 三右衛門殿

前書之通り、倉右衛門儀常々不行跡之段、私シ共方江「御さつとう(察当)
ニ預り、申訳ケ無ニ御座候、依レ之善八殿頼入、」御訴訟申上候所
ニ、早東御聞濟被レ成、御免被レ下忝奉レ存候、此以後随分私シ共
心付、左様成義一切致」させ申間敷候、其為連印指上ケ申候、重
而博奕」等致シ申候ハ、 御上様迄被ニ 仰上候共、一言之儀」
申間敷候、以上

親類 宗右衛門

同 平 七

同 七左衛門

同 又四郎

組頭 権左衛門

名主 三右衛門殿

善 八